



今回は、第63回弥生祭にみられた弥生生の姿です。

初日、県伊那文化会館で行われたオープニング・セレモニーの前に、文化会館近くの住民の方が縁石に自動車の車輪を乗り上げ、動かないで困っているところを、近くを通りかかった生徒（多くは運動部の生徒と聞いています）数名が駆け寄り、皆で車を持ちあげて助けたと近くにいた職員から聞きました。困っている人をみたら助けようという心意気を感じた素晴らしい姿でした。

その日の午後にあった「クラパフェ」（クラスパフォーマンス・フェスティバル）は、昨年度出張のため観ることができなかったため、楽しみにしていたところでした。

1年生から学年ごとにパフォーマンス発表をしていきますが、最初のクラスの発表から手拍子をしっかり鳴らし、場を盛り上げながら自ら楽しむという姿が見られました。弥生生はクラパフェの楽しみ方を知っているとその時直感で認識しました。そして、3年生にもなると、高い完成度で“見せるパフォーマンス”を練り上げ、さらに練習を重ね、「流石、上級生！」と思える内容でした。



クラパフェが始まって17年の積み重ねでしょうか、すべてのクラスがクラスの団結力をもって臨むクラパフェは弥生祭でも花形のプログラムではないでしょうか。

この勢いを次のクラス対抗の行事である音楽会へ是非つなげてほしいと思いました。

2日目の午前中は、「戦国時代」（体育祭）。前日の天気予報では、朝方まで雨が残るというものでしたが、朝から好天で、熱中症の心配をしなくてはならない状況でした。

朝、グラウンドに出てみると、数多くのテントを張って日陰をつくろうと生徒会執行部と率先してサッカー部、陸上部、ダンス部等々の運動部の皆さんが黙々とやってくれていました。「すべての学年が入れるか」といった心配もしてくれていました。本当にありがたいと思いました。そういった皆様の陰の力で、熱中症も出ず、怪我もなく、梅雨時の好天の中、皆で楽しめた戦国時代ができましたこと、本当に感謝です。



3日目最終日は、同居の家族と祖父母＋兄弟姉妹をご招待しました。3年生にとっては2年間校内祭であり、弥生祭初めての公開となりました。914名の本校関係者にご来場いただき、文化部の3年生最後のステージをみようと駆けつけた関係者の皆様の姿を拝見し、お招きしてよかったと思いました。また、後夜祭最後に宮澤地弘弥生祭実行委員長の「やりたいことは、まずはやってみようという気持ちをもって、チャレンジすること」という自分の体験から生徒皆へエールを送った姿が好印象でした。